

福田百合子と朗読の世界

——「朗読＋お話＋歌」のコラボ企画——

林 伸 一

1. はじめに

中原中也記念館の名誉館長であり、山口県立大学の名誉教授である福田百合子氏には、2019（平成31）年1月の「福田百合子が中也を語る」（於山口県立図書館）以来、ボランティア・グループ「山口の朗読屋さん」特別講師として25回にわたる朗読会に参加していただいた。2019年1月と2月の「福田百合子が中也を語る」朗読会については、すでに林（2020）が報告している。同年12月の「福田百合子がみすゞを語る 朗読＋ハーブ演奏＋お話し会」に関しては、林（2021）が新聞記事と写真入りで詳細に報告している。

2020年は、コロナ禍のために「福田百合子先生を囲む朗読会」は、開催できなかった。

2021年の「福田百合子が香月泰男を語る」朗読会や「福田百合子が大内文化を語る」朗読会、福田百合子『心のふるさと散歩』朗読会（春・夏・秋の章各二回）については、林（2022）が新聞記事や写真、アンケート結果などを含めて実施内容を報告している。

次頁の表1に示す第1回「冬の朗読会Part1『心のふるさと散歩・冬の章1』」と第2回の「冬の朗読会Part2『心のふるさと散歩・冬の章2』」は前年からの福田百合子『心のふるさと散歩』（1970年、全204頁・赤間書房）の朗読会の継続であり、全八回で完結した。ただし、福田百合子著『続・心のふるさと散歩』（全278頁）が赤間書店より1970年に発行されているので、そのための朗読＋お話し会の可能性は残されている。

2022年度の朗読企画としては、「朗読＋お話＋歌」というコラボレーションを実現したいと考えた。実際に次頁の表1に示すように、第3回目の「金子みすゞ『空のかあさま』朗読会」では「ちひろミニコンサート」とのコラボ企画が実現した。さらに第8回目の「金子みすゞ『キネマの街』朗読会でも「ちひろミニコンサート」とのコラボ企画が実現した。

また、第6回目の「夏の朗読会Part1『百合子のふるさと辞典』」では、シャンソン歌手の松崎雅子さんとのコラボ企画が実現した。第7回目の「ウクライナ民話」の朗読会ではトワイライト・フォー（フォーク・グループ）とのコラボができた。さらに第10回目の「福田百合子と平和を考える朗読会」では、再び歌手の松崎雅子さんとのコラボが実現。第13回目も同様。

特別講師の福田百合子先生からは、毎回分かりやすい解説と機知に富んだコメントを加えていただいた。朗読会のよき相談相手としてだけでなく、高齢者に生きる目標と希望を与えてくださった。

ここでは、朗読会の2022年における展開をアンケート結果を含めて開示し、朗読対象の分野の広がりやテーマの多様性に着目して考察したい。また、前年度との違いは、目の不自由な方や高齢者のために朗読部分の録音をして、CDで貸し出すことができるように工夫した点であ

(2)

る。それは、スタッフ・メンバーにとっても良き反省材料になっている。

2. 2022年における朗読会の展開

以下の表1に示すように2022年は12回の朗読会が福田百合子氏を招いて開催された。

表1. 2022年における朗読会の展開

() 内はアンケート回答者数

回	日時	タイトル	会場	参加者
1	1月22日(土) 2時～4時	冬の朗読会Part1 『心のふるさと散歩・冬の章1』	吉敷地域交流センター 講堂	32名 (25名)
2	2月19日(土) 2時～4時	冬の朗読会Part2 『心のふるさと散歩・冬の章2』	吉敷地域交流センター 講堂	24名 (17名)
3	4月16日(土) 2時～4時	金子みすゞ「空のかあさま」朗読会+ちひろ ミニコンサート	吉敷地域交流センター 講堂	56名 (50名)
4	4月25日(月) 2時～4時	アーサー・ビナード研究会「ウクライナ民話」 と「ハンガリー民話」他	山口児童館 (YABの取材)	15名
5	6月5日(日) 2時～4時	「ウクライナ民話」と日本の昔話(紙芝居) 朗読会	吉敷地域交流センター 講堂	39名 (30名)
6	6月19日(日) 2時～4時	夏の朗読会Part1『百合子のふるさと辞典』 +歌(松崎雅子)	吉敷地域交流センター 講堂	49名 (41名)
7	7月2日(土) 2時～4時	「ウクライナ民話」朗読+トワイライト・ フォーの歌(風に吹かれて他)	洞春寺本堂(山口 市水の上町5)	32名 (19名)
8	7月23日(土) 2時～4時	金子みすゞ『キネマの街』朗読会+ちひろミ ニコンサート	クリエイティブ・ スペース赤れんが	70名 (35名)
9	8月23日(火) 2時～4時	夏の朗読会Part2 アーサー・ビナード作品 朗読「ほくとり」「やまなし」「ポチャツ ポ チョイソップ」他	吉敷地域交流セ ンター視聴覚室 (NHK取材)	21名 (15名)
10	8月30日(火) 2時～4時	福田百合子と平和を考える朗読会+歌(松崎 雅子)	吉敷地域交流セ ンター視聴覚室	21名 (18名)
11	9月3日(土) 1時～4時	アーサー・ビナードと平和を考える朗読会 「やまなし」他+パネル展示	小郡地域交流セ ンター大ホール	55名 (33名)
12	10月4日(火) 2時～4時	秋の朗読会 山頭火「うしろすがたのしぐれ てゆくか」朗読会	大殿地域交流セ ンター講堂	22名 (14名)
13	12月17日(土) 2時～4時	クリスマス朗読会 『百合子のふるさと辞典』 朗読+お話+歌の集い	吉敷地域交流セ ンター講堂	55名 (37名)
合計	全13回 右○内はテー マごとの回数	ふるさと散歩② ふるさと辞典② 金子みすゞ② アーサー・ビナード作品④ ウクライナ民話② 種田山頭火①	吉敷地域交流セ ンター⑧ その他:各①	491名 (334名)

次に表1に示された朗読会の内容を具体的に開示してゆきたい。




紙幅の都合上、主として5回の「朗読+お話+歌」のコラボ企画に焦点を当てて考察する。

3. 「朗読＋お話＋歌」のコラボ企画

3-1. 「金子みすゞ朗読会とちひろミニコンサート」

4月16日の春の朗読会「金子みすゞ『空のかあさま』朗読会」では、「ちひろミニコンサート」とのコラボ企画を実施した。同日のプログラム（表2）とアンケート結果を示す。

表2. 金子みすゞ朗読会プログラム

2022年4月16日（土）2時～4時 山口の朗読屋さん 春の朗読会Part 1	
金子みすゞ朗読会プログラム	
吉敷地域交流センター	
	<p>第1部 『空のかあさま』朗読：山口の朗読屋さん 2時～3時 弁天島・小松原（田中範明）極楽寺・王子山（島田令子） くじら法会・瀬戸の雨（荒井佳恵）大漁・わたしと小鳥と鈴と （金崎清子）みこし・ぬかるみ（西村清美） ●福田百合子先生解説（15分）</p>
	<p>障子・つゆ（内藤充子）星とたんぼぼ・たもと（岡村久美子） もくせい・木（松富昭子）積もった雪・日の光（隅野洋子） 美しい町・明るい方へ（松重昭子） ●福田百合子先生解説（15分）</p>
	<p>第2部：ちひろミニコンサート 「明るい方へ～金子みすゞの心とともに～」 3時10分～4時 大漁・王子山・星とたんぼぼ・くじら法会 ・わたしと小鳥と鈴と・明るい方へ</p>
招待講師： 福田百合子先生	 Q&A（質問コーナー） ちひろさん （シンガーソングライター）

3-2. 「金子みすゞ朗読会とちひろミニコンサート」アンケート結果

4月16日「金子みすゞ朗読会」参加者56名中50名（男性5名・女性39名 無記入6名）のアンケートを回収したので、その集計結果を以下の表3、4、5に示す。最多項目は太字で示し、○内に人数を示す。回答者の年齢は、30代①・40代⑩・50代③・60代⑯・70代⑫・80代⑦ 無記入②であった。

表3. 「金子みすゞ朗読会とちひろミニコンサート」アンケート集計結果

- この朗読＋お話し会をどのようにお知りになりましたか？（複数回答可）
はがき⑯ 知人・友人⑫ ちひろさんのサイト⑨ SNS③ その他⑥ 無回答①
- 特に印象に残ったのは、次のどれですか？（複数回答可）
金子みすゞの詩の朗読⑯ 福田百合子先生の解説⑯ ちひろミニコンサート⑯
無回答③
- 今回の「金子みすゞ朗読会」の企画について、どう思いますか？
とても良かった⑯ 良かった⑪ どちらとも言えない⑩ 改善の余地あり⑩

4. 今回の朗読＋お話し会の「福田先生のお話」について、どう思いますか？
 とても良かった㊸ 良かった㊹ どちらとも言えない㊺ 改善の余地あり㊻
5. 今回の朗読会でちひろさんの「ミニコンサート」についてどう思いますか？
 とても良かった㊸ 良かった㊹ どちらとも言えない㊺ 改善の余地あり㊻

項目5の無回答が8名であった。それは、質問文の誤植<今後(→今回)の誤り>のために、どのように回答していいかわからず、無回答が他の項目より多く出たと思われる。

以下の項目6、7、9(コロナ感染対策)は、紙幅の都合上省略する。項目8の自由記述は次の表4に示す。性別年齢無記入者のコメントおよび謝辞などは省略する。

表4. 自由記述(朗読と歌のコラボ企画について)(記述なし㊼)

- * よどみない知識の泉、若さあふれる福田先生のお話、ちひろさんの澄んだきれいな声に年がいもなく、若返り、頑張ろうと思われました。(女性・80代)
- * ちひろさんの話、福田百合子さんの話がとても良かった。ちひろさんの声に魅せられました。いい声で詩が聞けて素敵な時間になりました。(女性・60代)
- * <朗読会>が様々な芸術とコラボして豊かになっていくのは、素晴らしいです。朗読者も大変練習されていることが発表成果で判ります。この朗読会は、広い舞台を思わせてくれます。(男性・80代)
- * すばらしい朗読と百合子先生の解説、そして第2部はちひろさんのコンサート、ちひろさんの生歌を聞いたのは、はじめてでした。その美しい歌声とみずゞの詩を味わい、それを曲に表しておられたのがびったりで、朗読とは違った面から心に迫ってきました。こうした企画、運営にあたった方々に感謝いたします。(女性・60代)
- * ちひろさんとのコラボ大変おもしろかった。また、お願いします。(女性・80代)
- * 癒されました。心が浄化されたように♡ とてもいいイベントです。これから「金子みすゞ」さんの詩集をしっかり勉強します。(女性・30代)
- * 本当によい会に出会いました。朗読、福田先生のお話、ちひろさんの歌、今日の日を忘れません。関わられた皆様ありがとうございました。(女性・70代)
- * みずゞの視点は、素晴らしいと思っていたが、朗読で聞いてみると、また違った意味での思いが伝えられて、非常によかったです。(女性・70代)
- * 朗読と福田先生のお話とちひろさんのミニコンサート、盛りだくさんの贅沢な時間を過ごさせていただきました。司会の金崎さんの采配も、福田先生のユーモアのある話術も、すてきでした。楽しい時間をありがとうございました。(女性・60代)
- * やはり福田先生のお話は楽しいです。ちひろさんの歌とお話も素晴らしかったです。とても魅力的な企画でした。(女性・60代)

表4に示したように朗読と歌のコラボ企画については「若返り」「癒される」「素晴らしい」ど好評であった。当日は、周南市の方から連れだって参加された方々から、次の表5のようなコメントが寄せられた。

表5. 自由記述（中原中也と金子みすゞと『婦人画報』まどみちお）

- * 私は、周南市の観光ボランティアをしております。福田先生のお話が、5月8日のまどさんウォークの案内の参考になりました。まどみちおさんが39歳の時に、婦人画報に入社していて、中原中也と金子みすゞの詩が、『婦人画報』に載っていたというのは、ネタになります。（女性・60代）
- * 歳を重ねると外出の機会が減少しますので、またコロナ禍中、このような企画ありがとうございます。みすゞさん、中也、まどみちお、山口県出身の作家の関連付けた解説、私も活用させて頂きたいと思います。（女性・70代）
- * 金子みすゞさんの詩は、時折耳にしてすぐわかりますね。心にすっと入ってきます。今回、福田先生にお会いできること、ちひろさんの歌が聞けると知り、周南からやってきましたが、よかったです。わきあいあいなんですね。地道にやってこられているな～（女性・60代）

福田先生の解説では、山口県が生んだ二人の詩人、中原中也と金子みすゞは実際に面識はなかったが、『婦人画報』という雑誌を介して接点があったとのこと。1920（大正9）年に当時13歳の中也が母の購読していた『婦人画報』に投稿して入選した短歌が「筆とりて手習いせし我母は 今は我より拙しといふ」であった。また『婦人画報』1923（大正12）年9月号には、当時20歳の金子みすゞの「おとむらひ」という詩が掲載されている。選者は、西条八十であった。1948（昭和23）年『婦人画報』に、まど・みちお（本名：石田道雄）が入社しており、山口県出身の中原中也と金子みすゞとまど・みちおが、同誌が絆となってつながっていたことがわかる。

表6. 『婦人画報』1923（大正12）年9月号掲載の金子みすゞの「おとむらひ」（選外佳作）

おとむらひ ふみがらの、おとむらひ、 鐘もならない、お伴もゐない、 ほんに、さみしいおとむらひ。 うす桃色のなつかしき、 憎い、大きな、状ぶくろ、 涙ににじんだインクのあとも、 封じこめた花びらも、 めらめらと、わけもなく燃える、 焔が文字になりもせで、 過ぎた、日のおもひ出は、 ゆるやかに、いま タぐれの空へ立ちのぼる。 『現代抒情小曲選集』大正十三年 元々金子みすゞの手書きの手帳 三冊には含まれていない。他に 「パチンコと雀」（『婦人の友』大 正十三年四月号）「浮き雲」（『婦 人世界』大正十三年七月号）があ り、『金子みすゞノート』には、 三作品が収録されている。

作品中の「ふみがら」は「古い手紙」、「状ぶくろ」は「封筒」のことである。残念ながら、『婦人画報』1923（大正12）年9月号掲載の金子みすゞの「おとむらひ」という詩は、JULA出版局の『新装版 金子みすゞ全集』には収録されていない。同三巻本に付録のように付いている『金子みすゞノート』（矢崎節夫）には、「金子みすゞ年譜」が掲載されており、「大正12年（1923）」

20歳の時に『婦人画報』9月号に「おとむらひ」が掲載されたことが記されている。また、「おとむらひ」のほか「パチンコと雀」と「浮き雲」も『金子みすゞノート』に収録されている。

ちなみに金子みすゞの詩は、1923(大正12)年の雑誌『童話』9月号に「お魚」「打出の小槌」、『婦人具楽部』9月号に「芝居小屋」、『金の星』9月号に「八百屋のお鳩」が一斉に掲載された。金子みすゞは『童話』誌上で西條八十に認められ、「若い童謡詩人の中の巨星」といわれ、投稿詩人たちの憧れの星となった。翌年の1924年『童話』2月号に「おとむらひの日」が掲載された。つまり、金子みすゞの「おとむらひ」(表6)と「おとむらひの日」(表7)は、タイトルは相似しているが、別の作品であり、発表年も内容も異なる。

表7. 『童話』1924(大正13)年2月号に掲載された金子みすゞの「おとむらひの日」

<p>『金子みすゞ童謡選集 蘭と墓』(季節の恋詩舎) 昭和四十五年</p>	<p>『日本幼年童謡集第七巻・童謡篇』(河出書房) 昭和二十九年</p>	<p>おとむらひの日</p> <p>お花や旗がかざられた よそのとむらひ見るたびに うちにもあればいいのにと こないだまでは思ってた。 だけでも、きょうはつまらない 人は多ぜいいるけれど だれも相手にならないし 都から来た叔母さまは だまって涙をためてるし だれも叱りはしないけど なんだか私は怖かった。 お店で小さくなつてたら 家から雲が湧くように 長い行列出て行った。</p> <p>あとは、なおさらさびしいな。 ほんちにけふは、つまらない。</p>
---------------------------------------	--------------------------------------	---

中原中也(1907〈明治40〉年4月29日-1937〈昭和12〉年10月22日、享年30歳)と金子みすゞ(1903〈明治36〉年4月11日-1930〈昭和5〉年3月10日、享年26歳)は、年齢差が4歳であるが、みすゞの方が中也より4年短い人生であった。まど・みちお(1909〈明治42〉年11月16日-2014〈平成26〉年2月28日、享年104歳)は、長命であった。1948年(39歳)婦人画報社に入社して、翌年(40歳)から『チャイルドブック』(国民図書刊行会)創刊から編集にたずさわり、1959年(50歳)に退社している。

表8. 4月16日の「金子みすゞ朗読会」の自由記述(改善点の指摘)

<p>*今日は、マスクをはずして朗読されたので、とても聴きやすかったです。福田先生の言われたように、今日の朗読は格別によかったです。(女性・60代)</p> <p>*コンサートの音が大きすぎる。もう少し小さくして。会場も小さいし、静かな朗読会にふさわしく。福田先生のお話も退屈せず、おもしろく目がさめました。(女性・60代)</p> <p>*バックの音が大きいと感じました。ちひろさんのお話も感慨深かった。(女性・60代)</p> <p>*朗読される5人の方は、前に一列に座ってマイクをマイクを回されたらどうかな? 入れ替わられるのが、ちょっと気になります。(女性・60代)</p>

最後のお三方からの改善点の指摘をしっかり受け止めるようにしたい。「コンサートの音が

大きすぎる」という点は、ちひろさんの音響担当者にも伝え、次回の音量調節に活かしてもらうこととした。朗読者が前に座る形も以後の朗読会で活かすようにした。

林 (2021) が「福田百合子先生を囲む朗読会－金子みすゞと『山口の朗読屋さん』－」で報告しているように、ハーブ演奏とのコラボの際にも「ハーブの音が大きくて、朗読の声が聞こえにくい」との声があった。生のハーブであれば良かったのだが、スピーカーで必要以上に拡声したために朗読と伴奏のバランスがとれなくなった例である。

表9. 4月16日の朗読会のスタッフからの回答・コラボ企画についてのコメント

- * 福田先生の解説は、いつ聞いても楽しみです。今日は、ちひろさんと一緒に朗読会ということで、少し緊張しました。いつものような朗読だけでなく、ちひろさんの歌も聞かれ、楽しい時間を過ごせてよかったです。CDではなく、やはり生歌はいいですね！ 次回が楽しみです。(女性・60代)
- * 福田先生の解説、ちひろさんのみすゞへの思いや詩についてのお話など、じっくり聞くことができ、とても良かったです。ちひろさんの澄んだ歌声が心にしみて、心地よい時間でした。終了後も余韻が残っています。みすゞについて、お二人から、もっとたくさんお話や歌を聞きたいと思います。(女性・60代)
- * 参加者も多く、音響スタッフも入れられ、本格的な雰囲気、会場全体にいつもにない活気を感じた。みすゞについて多くを知らないが、今回の朗読会でみすゞの視点のすごさや優しさについて、福田先生の言われたことが心に残った。ちひろさんの声は、清らかで心地よかった。ちひろさんもプロだが、司会の進行やトークもプロのようだ。(女性・60代)
- * とても良い企画でした!! ちひろさんはプロだから、私たちの朗読が軽くなるのではと考えておりましたが、福田先生の盛り上げに助けられました。福田先生は、やはりすばらしい方だと思っています。(女性・70代)

3-2. 「夏の朗読会Part1『百合子のふるさと辞典』+シャンソン」

6月19日の「夏の朗読会Part1」では、朗読とシャンソン歌手の松崎雅子さんとのコラボ企画が実現した。会場は、吉敷地域交流センター2階の講座室で、満席となった。



朗読テキストは、福田百合子著『百合子のふるさと辞典』(1979、山口新聞社)で「山口の朗読屋さん」のメンバーが朗読し、福田先生に解説していただいた。

歌のゲストのシャンソン歌手松崎雅子さんには、映画「ひまわり」の主題歌とシャンソン「愛しかなるとき」を熱唱していただいた。また、中原中也の「湖上」「妹よ」を福田先生による詩の朗読に続いて、松崎雅子さんに歌っていただいた。

1970(昭和45)年に公開されたイタリア映画「ひまわり」は、厳冬の地、ソビエトの東部戦線に送られ、消息を絶ったアントニオをマルチェロ・マストロヤニが演じ、冷戦下のソビエトに単身乗り込み、愛する夫の行方を探すヒロインのジョパンナをソフィア・ローレンが演じ



た。映画のハイライト、地平線まで広がるひまわりは、この地に眠る無数の兵士や市民たちの墓標。撮影が行われた場所こそ、現在のウクライナである。これまで日本では、映画が撮影されたのは、今まさに激しい戦闘が続いているウクライナ南部のヘルソン州だとされていたが、実際は、ウクライナ中部の都市ボルタワ近くにあるチェルニチー・ヤールという村であったことが分かった。(NHK鹿児島放送局がごしまWEB特集「名作映画「ひまわり」に隠された”国家のうそ”」2022年5月11日より引用—一部表現を簡略化した)

2022年6月19日のプログラムを以下の表10に示す。

表10. 6月19日 山口の朗読屋さん『百合子のふるさと辞典』

2022年6月19日 山口の朗読屋さん 『百合子のふるさと辞典』					
朗読+お話+歌の会 プログラム			吉敷地域交流センター2階講座室		
時間	題目・内容	担当者	詩	題目	担当者
14:00~	<あ>アブの目 アンギラ	荒井・岡村	①	春の日の夕暮	西村
14:15~	<い>帰郷・ インジュウ	田中・島田	②	朝の歌	内田
14:30~	解説	福田百合子	③	三歳の記憶	参加者
14:45~	中也の詩の朗読	①②③④	④	春の思ひ出	参加者
15:00~	休憩	トイレ案内	⑤	湖上	松崎
15:10~	<う>ウッパイ バラボラ	松重・隅野 西村	⑥	妹よ	福田→松崎
15:25~	<え>エンコ	内藤・金崎	⑦	ひまわり(映画)	松崎
15:35~	解説	福田百合子	⑧	愛しかない時 (チャンソン)	松崎
15:45~	松崎雅子・歌	⑤⑥⑦⑧			

参加者はスタッフを入れて49名であった。その内41名のアンケートを回収した。その内訳は、男性④・女性③・無回答⑥であった。年齢の内訳は(40代①・50代②・60代⑧・70代⑬・80代⑪・90代①・無回答②)であった。

アンケート結果を次の表11に示す。

表11. 6月19日『百合子のふるさと辞典』のアンケート集計結果

1. この朗読+お話し会をどのようにお知りになりましたか？ はがき⑭ 知人・友人⑨ 前回の朗読会⑫ SNS⑩ 松崎雅子さんの紹介⑧ 無記入③
2. 次の言葉のうち聞いたことがあるものは次のどれですか？(複数回答可) バチの田② アンギラホー⑨ アースキターラー⑪ アンギラ・アンギラ⑧ アースケダマ⑮ イラク(乾く)⑪ インジュウ⑩ イキラカス(叱る・怒鳴る)⑬ ウッパイ⑦ ウレイ(ウレエ)⑮ ウルウ⑮ エンコ⑬ エンタ⑥ エンバイ⑧
3. 今回の朗読+お話し会の「朗読」について、どう思いますか？ とても良かった⑮ 良かった⑮ どちらとも言えない① 改善の余地あり⑩
4. 今回の朗読+お話し会の「福田先生のお話」について、どう思いますか？ とても良かった⑮ 良かった⑧ どちらとも言えない⑩ 改善の余地あり⑩
5. 今回のゲストの松崎雅子さんの歌でどれが印象に残りましたか？ 湖上(中也)⑮ 妹よ(中也)⑩ ひまわり(映画)⑮ 愛しかない時⑮

上記項目2の「アンギラホー⑨ アースキターラー⑩ ウッパイ⑦」などは、朗読テキストに用いた福田百合子著『百合子のふるさと辞典』（1979、山口新聞社、全283頁）収録の山口方言である。書名からは、「方言辞典」を想像するかもしれないが、五十音順に構成されているものの、意味用法が辞典のように配列されたものではなく、古くからの地域方言にまつわる体験のエピソードを集めたエッセー集と言ってよい内容である。

40年以上前に刊行された本であるが、消失してしまった表現が多いかと言うとそうでもなく「ウルウ㉓」などは、アンケート回答者の半数以上が「聞いたことがある」としている。ちなみに食べ物に「もうウルウた」と言う場合は「堪能し過ぎた否定的な気持ちが働いている」「ぜいたくな飽和状態を指すことば」とされている。

同書によると「アンギラホー」は、「いい大人がいい年をして、少々間の抜けた格好や気分で、のんびんだらりとしている」状態を指す。「アースキターラー」は「空をふり仰いで、そっくり返った状態」を言う。「ウッパイがエエ」は「まことにたっぷり。ゆったり。十分に足りている有様。調和のとれた様子」のことで、男性に対しても女性に対しても用いられるようである。そのほかの語に関しては、山口県立山口図書館をはじめ山口県内10図書館に収蔵されている『百合子のふるさと辞典』を参照していただきたい。

次に「今回の催しに関して、ご意見・ご感想をご自由にお書きください」とした自由記述の回答の一部を紹介する。性別年齢無記入者のコメントおよび謝辞の部分は省略する。

表12. 6月19日のアンケート・方言に関する自由記述（自由記述欄への無記入は8名）

- * 福田百合子先生の解説、50年前から年暦を感じる。それは、私自身のことにも通じる。楽しい時間になりました。マスクなしでもよいのでは…と思います。（女性・70代）
- * 昔、父母が使っていたことを思い出して懐かしく思いました。福田先生の専門的なお話を聞き、とても勉強になりました。（女性・80代）
- * 福田先生は、いつ聞いてもメモなしで人名、地名、年代も淡みなく話されることに毎回感心しています。ただただ先生に憧れて、参加させて頂いています。（女性・70代）
- * 昔の言葉は、大変おもしろかった。なつかしく思い出され、なつかしさがいっぱいになった。福田先生のお話、とても興味深く聞きました。（女性・80代）
- * 山口には、案外方言が多いのに驚きました。とても勉強になりました。（女性・70代）
- * 百合子先生は素晴らしい!! 学者であり、詩人であり、エンターティナーであり!! 『百合子のふるさと辞典』は、山口を代表する作品だと思います。学校での教材にもしていただきたいです。（男性・80代）
- * 山口の言葉、知らない言葉がほとんどでした。（女性・50代）
- * 山口県にこんな方言があるのかと正直びっくりした。（女性・60代）
- * 方言にまつわる話は、よく故郷を思い出した。（男性・80代）

「山口の言葉、知らない言葉がほとんどでした」という女性（50代）の方もいるように福田先生と40歳以上の差があると元からの山口弁を使わない、知らない方が多くなる。

その一方で「昔、父母が使っていたことを思い出して懐かしく思いました」という女性（80

代)の方は、福田先生の世代に近く、地域方言というよりは「昔の言葉」として記憶しているようだ。文学がご専門の福田先生は、地域方言の専門家ではないが、古典のご研究から古語に詳しく、地域方言に残存する古語やその影響を解き明かすことができる。また地域言語が使われる状況や心情を的確に表現されるので談話研究のような視点をお持ちで「福田先生の専門的なお話を聞き、とても勉強になりました(女性・80代)」という印象になるのであろう。

表13. 6月19日『百合子のふるさと辞典』のアンケート<朗読に関する自由記述>

- * 山口市内の二人の詩の朗読、私も音読、読み聞かせにも、う〜と力が入ります。(女性・70代)
- * 朗読も素晴らしいのですが、百合子先生の解説も素晴らしい。(女性・80代)
- * 朗読の表現の仕方にも一人ひとり個性があり、耳を傾けながら、ひろがる景色の違いを楽しめました。プログラムにも工夫があり、飽きないで、引き込まれる表現の数々でした。(女性・60代)
- * 今日の朗読では、金崎さんの朗読の工夫がとても良かったと思います。百合子先生の中也の詩の朗読もよかった。また、きかせてください！(男性・80代)

表13の最初の「山口市内の二人の詩の朗読、私も音読、読み聞かせにも、う〜と力が入ります。(女性・70代)」との記述は、プログラムの第二部で参加者の中から、中也の詩を朗読してもらったことを指している。それまでの朗読会でも、できるだけ参加体験型の朗読会にしようとして参加者の朗読の時間を作るようになってきた。

また「百合子先生の中也の詩の朗読」を参加者も期待していることがわかる。

表14. 6月19日の『百合子のふるさと辞典』アンケート・スタッフからのコメント

- * とても楽しくよかったです。初めて聞く山口弁もあり、勉強になりました。福田先生のお話も当時の様子や「もう少し内容を詳しく書けばよかった」など、裏話も聞けて良かったです。松崎さんのシャンソンは、テレビでしか聞いたことがなく、生で聞いて感動しました。(特に「ひまわり」と「愛しくない時」)また、朗読会で聞きたいです。福田先生の中也の詩の朗読、よかったです。(女性・60代)
- * 朗読と映像とシャンソンとてもすてきな会になりました。参加者も多くなったと思います。(女性・60代)
- * 朗読、みなさんとても上手であった。福田先生の朗読+松崎さんのシャンソンの組み合わせがよかった。福田先生の「ここで、アンコール!!というのだったかしら?!」というハプニングが◀とても可愛らしく▶会場をやわらげた。首尾よく計画通りの進行もすごいが、これもまた和やかでとても良かったと思う。(女性・80代)
- * 福田先生と松崎さんの楽しいやりとりで盛り上がりました。朗読だけよりも他の良さが加わって良かったと思います。山口の方言のおもしろさが発見でき、なつかしい気持ちになりました。定期的に読み進めて行きたいと思います。(女性・70代)

- * 福田先生の朗読もあり、参加者の方の朗読もあり、会場みんなでの朗読会のようで、大変よかった。会を重ねるごとに、「次回もぜひ参加したい」と思ってもらえる会になつくような気がする。中也の詩はシャンソンが似合うなと思った。(女性・80代)
- * 朗読内容を参加者全員に受付で配布した方が良いのではないかと原稿なしで、10分近くの朗読を聞くのはキツイと思います。(男性・70代)

最後の「朗読内容を参加者全員に受付で配布した方が良いのではないかと」の提案であるが、パワーポイントで朗読原稿をスクリーンに映しながら朗読しており、紙の資料は膨大になることもあり、これまでは配布していない。文字情報に頼らなくても聞き手に内容が伝えられるか、朗読者の力量が問われるところである。ただし、金子みすゞや中原中也の詩などを参加者にも朗読してもらう場合には、参加者にコピーを配布している。

3-3. 7月2日「ウクライナ民話」朗読会+トワイライト・フォーとのコラボ

福田百合子先生をゲストに迎え、洞春寺で標記の朗読会と歌のグループ「トワイライト・フォー」とのコラボができた。以下の表15に当日のプログラムを示す。

表15. 「ウクライナ民話」朗読会プログラム

2022年7月2日(土) 「ウクライナ民話」朗読会 福田百合子先生をゲストに朗読×お話×歌 洞春寺		
時間	題目・内容	担当
14:00	開会のことば 麦の穂 おおかみと子羊 パンと子牛ときつねとおおかみ	金崎 福田百合子先生 島田 田中 荒井
14:20	解説	福田百合子先生
14:30	紙芝居「てぶくろ」 びんぼうこびと かものむすめ	内藤 島田 金崎
14:50	解説	福田百合子先生
15:00	休憩	トイレ・水分補給・換気
15:10	空とぶ船とゆかいなおかま	金崎 陶山
15:25	わらのうし セルコ(犬とおおかみ)	松重 隅野 内藤
15:40	解説	福田百合子先生
15:45	花はどこへ行ったの 風にながれて ふるさと	トワイライトフォー 全員
16:00	開会のことば・今後の予定	福田百合子先生・林



ボランティアグループ「山口の朗読屋さん」は、高齢者施設や子ども食堂を訪問したり、独自の朗読会を開催したりしている。2022年は、特にウクライナ民話の紹介に力を入れている。ウクライナ戦争下にあって、毎日のように戦禍が報道されているが、ウクライナの人々の暮らしなどについてほとんど知らないことに気づいた。「山口の朗読屋さん」として何ができるかを考えて、ウクライナ民話の紹介をすることにした。

4月のアーサー・ビナード研究会を皮切りに、5月には周南市の子ども食堂、山口市内の高齢者施設を訪問し、「ウクライナ民話朗読会」を実施した。同時に山口市内や防府市内の小学

校に同朗読会の学内開催を提案した。しかし、学校からは実施に向けた前向きな回答は得られず、独自の朗読会や出前朗読会をすることにした。



6月には、吉敷地域交流センターや国際芸術村の芸術村フェスティバルで、同朗読会を実施した。朗読会では、『てぶくろ』『空とぶ船とゆかいななかまたち』『わらのうし』『セルコ』『かものむすめ』『びんぼうこびと』などのウクライナ民話を朗読して、日本の昔話との類似点などについて話し合った。『びんぼうこびと』（内田莉莎子・再話／太田大八・画／福音館書店1998）は、元々『こどものとも』（1971年1月号 福音館書店）に収録されていたものである。『びんぼうこびと』は日本の『貧乏神と福の神』

の昔話と重なる部分もある。

参加者からは、「ウクライナの民話、日本のお話との共通点を知り、身近に感じる事ができました」（女性・60代）「ウクライナへの関心が強いので、民話が聴けて、とても感動でした。知らない昔話ばかりでした」（女性・70代）「ウクライナのことを思い、よい企画だったと思います。第二次大戦を思いながら、ウクライナの昔話おもしろかった」（女性・80代）「ウクライナを身近に感じました。早く、ウクライナに平和が来ることを祈ります。民話には、各国共通したものがあると感じました」（女性・70代）などの声が聞かれた。



ウクライナ民話の『かものむすめ』（松谷さやか訳／オリガ・ヤクトーヴィチ絵／福音館書店 1994年）はケガをした鴨をおじいさんとおばあさんが助けたことから、鴨が美しい娘に変身して家事を手伝い、糸をつむぐという話である。日本の『鶴の恩返し』によく似ている。元々は福音館書店『こどものとも』463号（1994年10月号）や『こどものとも・世界昔ばなしの旅』（1997年）に収録されていた。

上記以外にも様々なウクライナ民話があり、日本語に翻訳されているものだけでも70以上あり、ウクライナは民話の宝庫とも言われている。日本に比べ広大な農地を有し、ヨーロッパの穀倉地帯と言われているウクライナであるが、同国の民話群も大きな宝であろう。ただ、残念なのは『わらのうし』『セルコ』『びんぼうこびと』『かものむすめ』などは、福音館書店の発



行であるが、すでに品切れで再版の見通しがいいないのである。ただ図書館やネットで手に入ることがあるので、実物を見てほしい。

『てぶくろ』に関しては、もともとのエウゲーニー・M・ラチョフ絵・内田莉莎子訳の福音館書店（1965年）発行の絵本だけでなく、童心社から紙芝居（堀尾青史・脚本／箕田美子・絵／童心社 1979／12場面）も出されている。内容は「しずかな森の雪の上に、おじいさんがおとしたてぶくろがひとつ。はじめにネズミがやってきて中に入り、つぎにカエルが入り…」と続く。「山口の朗読屋さん」は、朗読会の際に参加者と絵本の『てぶくろ』でリレー朗読を実施している。

3-4. 金子みすゞ『キネマの街』朗読会+ちひろミニコンサート

2022年7月23日（土）2時～3時、山口の朗読屋さん・夏の思い出づくり「金子みすゞ『キ

ネマの街』朗読会+ちひろミニコンサート（絵画×ちひろ×朗読）」がクリエイティブ・スペース赤れんがで開催された。ギャラリー楓花（かえで）グループの作品展示と朗読と歌のコラボ企画となった。朗読テキストは『金子みすゞ キネマの街』（深沢邦朗・絵/JULA出版局、2001年）で、ゲスト講師は、福田百合子先生であった。参加70名中35名（男性3名、女性26名、無記入6名）分のアンケートを回収したので、次の表16に示す。



表16. 2022年7月23日 赤れんが「キネマの街」朗読会アンケート結果集計

1. この朗読+お話し会をどのようにお知りになりましたか？
 チラシ③ 知人・友人⑬ 前回の朗読会⑨ ラジオ② SNS④ スタッフ⑤ 無記入②
2. 特に印象に残ったのは、次のどれですか？ ✓をつけてください。（複数回答可）
 ピラまき自動車⑩ 魚売りの小母さんに⑥ 行軍将棋⑤ 花屋の爺さん⑮
 日曜の朝⑧ 金米糖の夢⑫ 山の子浜ノ子⑥ はつ秋⑦ なまけ時計⑩ 大将⑤
 月と泥棒⑧ 曲馬の小屋⑦ 寒のあめ⑦ かるた⑧ キネマの街⑭
 福田百合子先生の解説⑳
 その他：福田先生の力強い開会のことば／内藤様の声が好きです／展示されていた絵画
3. 今回の朗読+お話し会の「朗読」について、どう思いますか？
 とても良かった㉗ 良かった⑧ どちらとも言えない⑩
 改善の余地あり：少し長すぎた
4. 今回の朗読+お話し会の「福田先生のお話」について、どう思いますか？
 とても良かった⑩ 良かった⑤ どちらとも言えない⑩ その他：いつも楽しい
5. 今回の「ちひろミニコンサート」について、どう思いますか？
 とても良かった⑩ 良かった③ どちらとも言えない⑩ その他：すばらしい
 無記入②
6. 「ちひろミニコンサート」のどの曲が特に印象に残りましたか？
 金米糖の夢⑬ 花屋の爺さん⑬ 夏の思い出⑬ 大きな古時計⑬ 赤とんぼ⑬
 ふるさと⑬ 私と小鳥と鈴と㉕ 大漁⑤ 無記入④

第6項目の「ちひろミニコンサート」の曲名に当日追加の「大漁」が抜けていた。

表17. 2022年7月23日の「キネマの街」朗読会アンケート自由記述（無記入⑩）

- * 福田百合子先生のユーモアいっぱいのお話、とてもステキでした。年を重ねられても、若々しい心と姿とすばらしいです。ちひろさんのうたも心癒される歌声とおしゃべりと感動でした。朗読される方々の自信をもった詩の紹介と自分の感想良かったですよ。（女性・80代）
- * ちひろさんの笑顔と澄んだ声に元気をもらいました。福田百合子先生の相変わらずユーモアあふれる話からも元気をもらいました。（女性・70代）

- *朗読と福田先生のお話で、イメージがふくらみ、みすゞさんの詩が私の中で生き生きとしてきました。ちひろさんの歌、素晴らしいですね。思わず涙が出そうになりました。(女性・70代)
- *何度か朗読会に参加させていただいています。みなさんの朗読素晴らしく、何より福田先生の解説が毎回興味深く、楽しみです。ちひろさんのコンサート始めて聴きました。とても素敵な歌声でした。(女性・50代)
- *ちひろさんの金子みすゞさんのコメント、説明大変良かった。歌声も素晴らしかった。(男性・60代)
- *「コロナ」の中で催して下さい、本当にありがとうございました。朗読は初めてですが、素晴らしいひと時でした。ちひろさんの歌声は、さすが心にあたたく響きました。アンコールあれば、やはり、なお良かったです。(女性・80代)
- *絵と朗読とミニコンサート(歌)ととてもゆったりとした時間でした。(女性・60代)
- *初めての朗読会でした。心のゆとりを感じました。ちひろさんステキでした。心が和みました。(女性・60代)
- *催しがあることを今回初めて知って、おもしろかったです。(女性・60代)
- *福田先生すてきでした。絵画、朗読はすばらしい。(女性・70代)
- *すてきな絵画に囲まれての朗読会とても良かったです。(女性・70代)
- *詩について朗読する方が感想を言われるのが、新鮮で楽しかった。福田先生のお話も、おもしろくて、すてきでした。(女性・60代)
- *とてもよかったです。朗読された方の一口解説(?)が特によかったです。(女性・60代)

表17の最後の方に「詩について朗読する方が感想を言われるのが、新鮮で楽しかった」との声が寄せられた。それまでの朗読会では、朗読者は朗読テキストを読むことに専心し、自分の感想や体験を述べることはなかった。今回から朗読者も一言述べるようにした。「朗読された方の一口解説(?)」が詩の鑑賞の妨げになったり、押し付けになったりはしないかとの懸念もあったが、上記の表17に見る限り、好意的に受け取られたようだ。

3-5. 2022年8月30日の「福田百合子と平和を考える朗読会」

吉敷地域交流センター二階視聴覚室で「福田百合子と平和を考える朗読会」が開かれた。当初、「アーサー・ビナードと平和を考える朗読会」のためのリハーサルとして設定されたためビナード氏の翻訳本『ほくトリ』(イングリ・シャベール作、グリディ絵、千倉書房 2022年)、『カエルのくにつたわるおはなし ポチャッ ポチョッ イソップ』(アーサー・ビナード再話、スズキコージ絵、玉川大学出版部 2022年)を朗読テキストにした。

特別ゲストは、福田百合子先生とシャンソン歌手の松崎雅子さんと、松崎さんには「百万本のバラ」と映画「ひまわり」の二曲を歌っていただいた。

ソ連のヒット曲「百万本のバラ」は、ロシアの歌手アーラ・プカチョワさん(現在73歳)が歌ったもので、ロシアで「反戦」の象徴となっているとのことである。夫がウクライナ侵攻を非難して「外国エージェント(スパイ)」に認定されるとアーラ・プカチョワさんは「私も加

えて」と直訴したと伝えられている。

表18. 2022年8月30日 夏の朗読会アンケート集計結果（21名中18名分回収）

- | |
|--|
| 1. この朗読＋お話し会をどのようにお知りになりましたか？
葉書・チラシ① 知人・友人③ 前回の朗読会⑧ 新聞⑩ その他⑥ 無記入① |
| 2. 特に印象に残ったのは、次のどれですか？（複数回答可）
ほくトリ⑤ ポチャップチョイソップ③ やまなし⑦ ちっちゃいこえ⑩
福田百合子先生の解説⑩ 松崎雅子さんの歌⑩ その他⑥ |
| 3. 今回の朗読＋お話し会の「朗読」について、どう思いますか？
とても良かった⑩ 良かった⑦ どちらとも言えない④ 無記入① |
| 4. 今回の朗読＋お話し会の「福田先生のお話」について、どう思いますか？
とても良かった⑭ 良かった③ どちらとも言えない④ 無記入① |

表19. 8月30日「福田百合子と平和を考える朗読会」のアンケート自由記述（無記入④）

- | |
|--|
| *紙芝居は、本当に熱演でした。とても分かりやすかったです。（女性・70代） |
| *紙芝居『ちっちゃいこえ』はとても良かった。イソップ物語は、前回より良かったと思います。福田先生のお話は、いつも楽しいです。（女性・80代） |
| *とてもよかったです。譜面台の前のひまわりの花がとても良かったです。松崎さんの歌、ひまわりと合って良かったです。是非また聞きたいです。（女性・70代） |
| *福田先生のお話の中で、戦中の時代から戦後、現代に至るまでの人間の姿容がわかるように思いました。どの様に理解していくか、一つの言葉から様々なとらえ方が出来ることは楽しいですね。立て板に水のごとくの福田先生の解説、楽しいですね。スバラシイ！（女性・70代） |
| *蛙声（あせい）中也の最後の詩、幅広い福田先生の話は、おもしろかった。詩の解釈は、人それぞれ、『ほくトリ』も色々解釈できて楽しかった。『ポチャップチョイソップ』は何が言いたいのか？ちょっと疑問を感じたが、寓話としてはおもしろかった。（女性・70代） |
| *松崎雅子さんの歌は、素晴らしかった！紙芝居『ちっちゃいこえ』はとても良かった。福田先生のファッションも素敵だし、解説も知識の増大さに驚くばかりで、とても楽しいお話でした。『ポチャップチョイソップ』のカエルのお話もおもしろく、『やまなし』はとても素敵な絵でしたが内容が今一よくわかりませんでした。（女性・70代） |
| *「やまなし」の実物が見られ、また、みなさんの朗読を伺い、9月3日が、とても楽しみになりました。ありがとうございます。（女性・50代） |

紙芝居『ちっちゃいこえ』（アーサー・ピナード脚本／丸木俊・丸木位里絵／「原爆の図」より／童心社、2019）は当初プログラムになかったが、急遽付け加えられた。それは、紙芝居の最優秀作品に贈られる五山賞（第58回特別賞）に『ちっちゃいこえ』が選ばれたからである。贈呈式は7月31日に東京都内で開かれたが、8月27日付けの朝日新聞に掲載された。そこで、お祝いのお披露目ということで9月3日の朗読会に、アーサー・ピナードに実演をお願い

いた。(詳細は『山口大学文学会志』第73巻参照)

リハーサルは8月30日には、岡村久美子が紙芝居『ちっちゃいこえ』を演じた。

上記の「やまなし」の実物が見られ…とあるのは、登山が趣味のスタッフの一人が、わざわざ自然の「やまなし」を採って来てくれ、それが参加者に披露されたことによる。

表20. 8月30日「福田百合子と平和を考える朗読会」のスタッフからのコメント

- *メインの三作品、朗読後の作者等の紹介—もう少しコンパクトにならないのか？ まだまだマスクは必要です。エアロゾル回避が重要だから (女性・80代)
- *今回の朗読教室がリハーサルとして二回目だが、前回とまた違って、勉強になった。読み手が代わった絵本もあり、読む人により本の雰囲気も変わるなど感じた。(女性・60代)
- *前回の気づきを読み改善していけるところは、改善出来てよかった。本の内容について話ができてよかった。読み手の立ち位置など、当日朝のリハーサルで確認すると良いと思う。(女性・60代)
- *みんなの気持ちがとてもよく合うようになって、当日が楽しみです。もっと勉強して、良い朗読ができるようになりたいと思います。(女性・70代)

4. まとめと今後の課題

以上、見てきたように2022年の朗読会の取り組みは、多彩で挑戦的なものであった。依然としてコロナ禍で、老人ホームの出前公演が中止になったこともある中で、「朗読+お話+歌」のコラボ企画は、6回実施することができた。2022年の朗読会13回の参加者合計491人中、6回のコラボ企画の参加者合計が283人となった。

今後、改善点はいろいろとあるが、「初めて朗読会に参加した」という方も多く、朗読会のすそ野を広げていくためには、継続的に実施していきたい。

特に、2022年7月23日の「山口の朗読屋さん」と「ギャラリー楓花グループ」の共催の「夏の思い出づくり」は、「金子みすゞ『キネマの街』朗読会+ちひろミニコンサート(絵画×ちひろ×朗読)」という形で、普段絵を描く方々で、あまり朗読に興味・関心がない方も参加してください、参加者70名という2022年最大の参加人数となった。それは「絵画×歌×朗読」という三者のコラボという点で、準備や調整作業が困難なこともあるが、他分野との連携と交流は、やりがいもあり、企画力向上につながると思われる。

「音楽」や「絵画」に比べて「朗読」の文化的・芸術的な価値が、必ずしも適切に評価されているとは言えない中で、「音楽」や「絵画」と肩を並べるような位置を占めるためには、今後もコラボ企画を通して、異分野からの参加者の理解を得ていく必要があると思われる。

また、「絵本」は子どもが読む、あるいは子どもに読み聞かせるものという固定観念が強いと思われるが、大人もその絵画性や寓意性を大いに楽しむことができるという点に着目してゆきたい。

【参考文献】

- アーサー・ビナード再話／スズキコージ絵 (2022) 『カエルのくにつたわるおはなし ポチャッポチョッ イソップ』玉川大学出版部 (全35頁)
- アーサー・ビナード脚本／丸木俊・丸木位里絵／「原爆の図」より (2019) 紙芝居『ちっちゃいこえ』(童心社、16場面)
- イングリ・シャベール作／グリディ絵／アーサー・ビナード訳 (2022) 『ぼくトリ』千倉書房 (全42頁)
- 内田莉莎子・再話／太田大八・画 (1998) 『びんぼうこびと』福音館書店
- エウゲーニー・M・ラチョフ絵・内田莉莎子訳 (1965) 絵本『てぶくろ』福音館書店
- オリガ・ヤクトーヴィチ絵／松谷さやか訳 (1994) 『かものむすめ』福音館書店
- 金子みすゞ作／深沢邦朗・絵 (2001) 『金子みすゞ キネマの街』JULA出版局
- 金子みすゞ作／石井昭・影絵 (1997) 『金子みすゞ 空のかあさま』新日本教育図書
- 金子みすゞ (1984) 『新装版金子みすゞ全集』(全三巻＋『金子みすゞノート』矢崎節夫) JULA出版局
- 金子みすゞ (1923) 「おとむらひ」『婦人画報』9月号
- 金子みすゞ (1924) 「おとむらひの日」『童話』2月号
- 林伸一 (2020) 「朗読会の可能性を考える－ボランティア・グループ『山口の朗読屋さん』の視点から－」山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第43号 pp.132－146
- 林伸一 (2021) 「福田百合子先生を囲む朗読会－金子みすゞと『山口の朗読屋さん』－」山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第44号 pp.14－30
- 林伸一 (2022) 「福田百合子『心ふるさと散歩』論－朗読会とお話し会から見えてきたもの－」山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第45号 pp.73－88
- 福田百合子 (1970) 『心ふるさと散歩』赤間書店 (全204頁)
- 福田百合子 (1970) 『続・心ふるさと散歩』赤間書店 (全278頁)
- 福田百合子 (1979) 『百合子のふるさと辞典』山口新聞社 (全283頁)
- 堀尾青史・脚本／箕田美子・絵 (1979) 紙芝居『てぶくろ』童心社 (12場面)
- 宮沢賢治作／山村浩二絵／アーサー・ビナード訳 (2022) 『やまなしMountain Stream』今人舎 (全45頁)

【謝辞】 まず、「山口の朗読屋さん」特別講師として2019年以来、25回にわたる朗読会に参加していただき、朗読の解説だけでなく、企画や朗読内容の相談に至るまでアドバイスしていただいている福田百合子先生に心より感謝致します。ありがとうございます。

次に、該当の朗読会の開催にあたり、玉川大学出版部、千倉書房、今人舎、福音館書店などからパワーポイントでの映写を快く承諾していただいたことを感謝致します。

また、「こどもと本のジョイントネット21・山口」のブログ上で「山口の朗読屋さん」の活動を紹介してくださり、朗読会の告知を詳しくくださっている山口智子さんに心より感謝致します。いつも助かっております。

(はやし・しんいち)